



公共測量の最新動向紹介 日測協九州らがセミナー

日本測量協会（日測協）
認定の空間情報総括監理技

術者の有資格者で構成する
スペーシャリストの会九州
支部（鵜飼尚弘支部長）と
日測協九州支部（山本旗年
支部長）は9日、「知っと
ーとセミナーin九州」を
福岡市博多区のリファレン
ス駅東ビルで開いた。写
真。約50人が参加。公共測
量の最新の動向などの講演
に耳を傾けた。

冒頭、鵜飼支部長は「岸
田政権はDX（デジタルト
ランスフォーメーション）
を強く推進している。講演
を皆さんの業務に生かして
もらえれば」と述べた。
引き続き国土地理院九州

地方測量部の村上克明次長
が「UAV（無人航空機）
を用いた公共測量における
最新の動向」、国際航業九
州支社の小野山裕治氏が
「直轄国道における航空レ
ーザー測量成果等のセンシ
ングデータ活用事例」と
題し、それぞれ講演。

村上次長は建設業の働き
方改革と生産性の向上につ
ながるICT（情報通信技
術）活用工事の最初の工程
である3Dデータの作成に
必要な測量の重要性を示唆
し、「目的に応じた適切な
測量手法の選択が必要」な
どと話した。